

平成 27 年 10 月 26 日

学校関係者評価委員会 報告書

学校法人コア学園
秋田コア ビジネスカレッジ
学校関係者評価委員会

「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、学校関係者評価委員会において「平成 26 年度自己評価報告書」に対し、評価を行った。学校側からの説明および各委員からの意見を以下の報告書として取りまとめた。

学校関係者評価委員

<委員長>

- ・吉川 裕太 (吉川税理士事務所 所長)

<委員>

- ・近江谷 功 (秋田商工会議所 事務局次長)
- ・小西 一幸 (秋田市立 秋田商業高等学校 教諭)
- ・佐藤 和彦 (秋田ビューホテル 総支配人)
- ・能登 泰之 (ハーモニー薬局 管理薬剤師)
- ・菅原 恵悦 (一般社団法人 秋田県情報産業協会 人材育成委員会 委員長、株式会社アキタシステムマネジメント 取締役)
- ・小林 賢吾 (秋田コア ビジネスカレッジ 同窓会幹事、有限会社マゼンタ 勤務)

学校側出席者

- ・市田 和夫 (校長)
- ・小玉 拓子 (事務長)
- ・小杉 咲子 (学生部 部長)
- ・奥山 幸平 (教務部 部長)
- ・藤井 耕太郎 (教務部 副部長)
- ・大石 卓司 (ビジネスキャリア科 主任)
- ・菊池 仁 (ホテル・ブライダル科 主任)
- ・杉山 和久子 (医療事務科 主任)
- ・米谷 久志 (情報システム科 主任)

第1回 学校関係者評価委員会

日時:平成27年7月24日(金) 18:00~18:50

場所:学校法人コア学園 秋田コア ビジネスカレッジ 101 教室

学校側から、以下の資料が提示された。

- (1) 専修学校における学校評価ガイドライン (一部抜粋)
- (2) 平成26年度自己評価報告書

学校側より、以下の説明がなされた。

- (1) 学校評価について
 - ① 学校評価の目的
学校評価を通じた組織的・継続的な教育活動等の改善、および、学生・卒業生、関係業界等の地域のステークホルダーとの連携協力による特色ある専修学校づくりの推進。
 - ② 学校評価の定義
 - ・自己評価：各学校の教職員が、当該学校の理念・目標に照らして自らの教育活動について行う評価
 - ・学校関係者評価：学生・卒業生、関係業界、専修学校団体・関係団体、中学校・高等学校、保護者・地域住民、所轄庁等の学校関係者により構成された評価委員会等が自己評価の結果を基本として行う評価
 - ・第三者評価：学校から独立した第三者による評価基準等に基づき、専門的・客観的立場から行う評価
- (2) 外部アンケートの実施について
学生を対象に、平成26年度の授業評価アンケートを実施し、自己評価の資料として活用した。
- (3) 自己評価について
「専修学校における学校評価ガイドライン」に基づき、「教育理念・目的・育成人材像」「教育活動」「学生支援」の3つの視点に沿って評価項目を設定し、自己評価を行った。

<委員からの指摘等>

各評価項目に委員より内容の確認・指摘があったものを以下に挙げる。

<評価項目2>重点目標

- 最新の実務・知識を反映したカリキュラムの策定を、ぜひ実現していただきたい。現場では、新しい技術や情報に基づいて業務を行っている。現場のホットな話題を、学生に伝えられるようなカリキュラムを策定していただきたい。
- 高度な資格は合格率が低く、また長期に渡ってじっくりと学習に取り組まなければならない。ぜひそういった環境づくりに尽力していただき、万が一不合格だった学生へのフォローをしっかりと行っていただきたい

<評価項目3>学校運営

- 中学生・高校生の学校見学の受け入れについて、特に中学生に対しては、どういったことを行っているのか。また、1回あたりの参加人数について、知りたい。

<評価項目5>教育成果（学修成果）

- 学校側も卒業生の状況把握は不十分であると認識している。就職率は上がってきているので、離職率もまずはしっかりと把握して、さらに下げていくように対応していかなければならない。

<評価項目6>学生支援

- 学生の健康管理を担う組織体制について、体調不良には心の問題もあるのではないかと。可能ならスクールカウンセラーの配置を検討してはどうか。退学者の減少にもつながるのではないかと。

<評価項目10>法令等の遵守

- 自己評価書について、誰がどういう課程で評価を行って作成したのか、教えていただきたい。
- 自己評価の元となった理由、すなわち「①取組・成果・課題」を項目ごとに明記してほしい。評価項目によっては個別に明記されているものもあるので、全体的に分かりやすくしてほしい。
- 学校評価をホームページで公表するように義務付けられているということだが、ホテルでも自分中心の宣伝告知から利用していただいたお客様のお喜びの声やSNSの評価を利用するようになっている。学校でも、卒業生や関連企業からの声を利用した方が、第三者へのアピールになると思う。

以上の指摘を踏まえ、自己評価報告書について見直しを行い、第2回委員会において学校側より改めて提示することとなった。

第2回 学校関係者評価委員会

日時:平成27年9月1日(火) 17:30~18:30

場所:学校法人コア学園 秋田リハビリテーション学院 101 教室

学校側から自己評価報告書について、以下の説明がなされた。

(1) 自己評価報告書の修正について

第1回学校関係者評価委員会での質疑応答をふまえ、学内自己点検委員会を開催し報告書の修正を行った。

<修正箇所>

- ① [取組・成果・課題] へ全評価項目のコメントを記載
- ② [今後の改善方策] へ評価が「3」または「2」の項目についてコメントを記載

<委員からの指摘等>

各評価項目に委員より内容の確認・指摘があったものを以下に挙げる。

<評価項目2>重点目標

- 「資格取得率の向上や高度な資格検定へのチャレンジを推進する」については、現状では成果が出ている。しかし、さらに高めていくために、高度な資格の合格率の伸び悩みへの対策や、不合格となった学生のフォローのためのカリキュラム編成について、今後は検討していかなければならない。

<評価項目4>教育活動

- 人材育成目標の達成に向けた専門科目というのは、どういう科目なのか。人材育成というのは、専門性だけではなく、社会性や人格面の育成といった意味も含んでいるのかと思った。
- 各教員の担当授業時間数を平均化し、空き時間をスキルアップ研修などに利用したいが、教員の絶対数が足りないので、時間割上の工夫などの方法で対応可能かどうか、検討が必要である。
- 「高度ITエンジニア科(3年課程)の学生は、理想と現実のギャップが大きい」とあるが、どういったギャップなのか。

<評価項目6>学生支援

- 高校等へ各分野の出前授業を行っているが、全ての依頼に対して行われている訳ではなく、また学科によっては対応できていない事例があるため、今後は模擬授業や出前授業のテーマの充実を図り、全学科が対応できるような内容を用意していかなければならない。
- 平成26年度の模擬授業や出前授業の実績を教えてもらえないか。また、教員の担当授業時間数を考えた時、実際に出席授業は可能なのか。高校としては、ぜひ連携をしたいと考えている。

高校において、IT人材の基盤となる部分を作っていければと思う。

- 学生に対する経済的な支援体制について、現在奨学金制度があると思うが、新たに準備しているのか。その制度は在校生にも該当者がいれば適用となるのか。また、ダイレクトに学校の収入減につながるため、経営にも影響があるのではないか。

<評価項目7>教育環境

- 教務データベース専用のサーバを設置し、セキュリティ面の強化を図っているが、ファイルサーバなどは老朽化が進んでいたり、運用ルールの統一化が図れていないところがあるため、引き続き環境整備が必要である。

<評価項目11>社会貢献

- 来年度、自治会を立ち上げる予定だが、いずれ社会貢献に繋がれば良いと思う。

総括

- 専門的な教育指導の運営・体制については特に意見はありません。本評価報告書に基づき改善を確実に実施する事を希望します。
- 中小企業では即戦力となる専門人材の確保と、社会人としての人間性（バランスと個性）が重要な視点と捉えており、就職後の離職率低減を図る上でも、社会人教育の充実策を今後希望いたします。
- 委員側も学校に対する理解度が不足している部分があるので、年に2回の委員会以外でも情報を得る機会があると良いかも知れません。
- 就職率の向上は、イコール就学中の学生の目的意識がより明確化されてきている大きな成果であると感じております。私ども企業側からすれば、就職は「夢」と「現実」の狭間での自身との戦い、そして「現実」を積み重ねながら「夢」を大切に大きくしていく事ができる力強い学生の育成が大切であると考えております。
- 学校評価委員として、少しでも貴校のお役に立てればと思い、辛口なコメントまたは会議での不躰な質問に対して、ご容赦願います。また、結果を補足する参考資料などがあれば、もう少しスムーズにコメントや会話が出来るかと思しますので、来年の参考にさせて頂ければと思います。
- 貴学進学した生徒たちが、ひとまわりもふたまわりも成長して欲しいと願っております。学校の改善にお役立てできることがあればぜひ協力させてください。ありがとうございました。

以上